

『河川の管理と空間利用—川はだれのものか、どうつきあうか—』

吉川勝秀著

本書は、河川管理の実務的ノウハウを踏まえ、これからの時代の河川の管理・整備、そして河川空間の利用についての全体像を述べたものであり、解説書でもある。

河川管理は、広義には河川整備を含むものであるが、本書ではその河川管理の経過を振り返りつつ、これからのあり方についての基本的な事項を提示している。河川空間の利用については、大きな河川の優れた利用、健康・福祉・医療と教育の視点での利用、川のユニバーサルデザイン、都市再生における河川空間の活用事例を数多く紹介している。

20世紀、特にその後半の時代は、水害を防ぎ、被害を軽減するために河川の整備をすることが、あたかも河川管理の目的であり、主要事項であるとされた時代であった。河川担当部局の組織も予算措置も、そして人員もそれに対応したものであり、多くの面で現在もそれが継承されている。しかし、少子・高齢社会のこれからの時代は、河川整備への投資には大きな制約があり、その制約の中で河川を維持・更新しつつ限られた整備をするものの、むしろ今ある河川を適切に管理し、河川を利用する時代である。

このような河川管理の必要性・重要性は認識されつつあるが、河川の管理に関する参考書・文献は、本書の著者が編集関係者代表となっている『改訂解説河川管理施設等構造令』など、極めて専門的なものがあるのみであり、その全体像や本質、基本を述べたものはなかった。この面で、本書は河川管理の実態と本質について述べた貴重な本であるといえる。

本書の著者は、建設省（現国土交通省）での河川管理の現場経験や全国の河川管理を指導・助言する立場での経験を踏まえ、事例紹介や解説にとどまらず、欧米等の実情調査も踏まえた国際的な視野をもって、河川管理の本質や今後の河川管理のあり方を提示している。この面でも、広い視野から河川を考察し、論じている。

本書は、河川管理に携わる国、都道府県の河川関係者、市区町村の都市行政関係者、河川について学ぶ学生や教員等にとって有用の書といえるであろう。

主要目次

- 第1章 河川の整備と管理、利用の経過
- 第2章 河川の整備、管理の実態
- 第3章 河川利用のルール
- 第4章 優れた河川利用の事例
- 第5章 川のユニバーサルデザイン
- 第6章 今後必要なこと

出版：鹿島出版会

定価3,570円（本体3,400円＋税）

A5判192頁

ISBN978-4-306-02413-7



(表紙イメージ)